

石仏にみる月待信仰

藤 由美

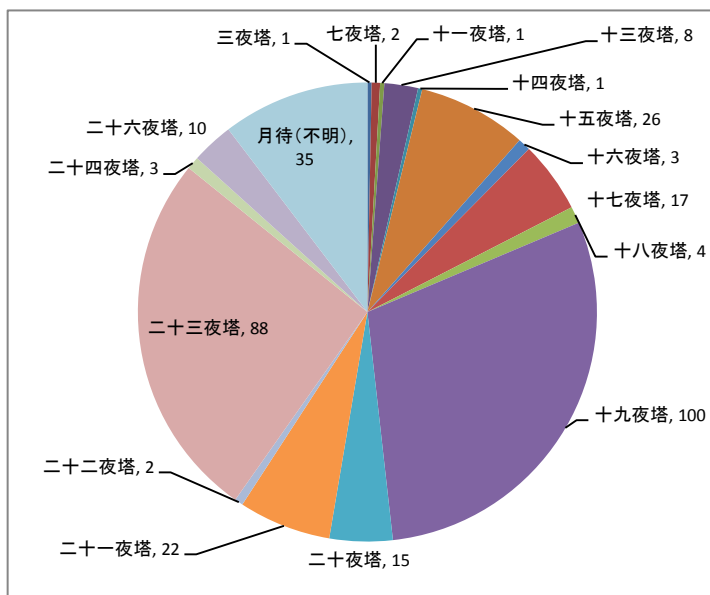
① 千葉県北部の月待塔の地域的な様相

北総 10 市町村の月待塔の種類別基数

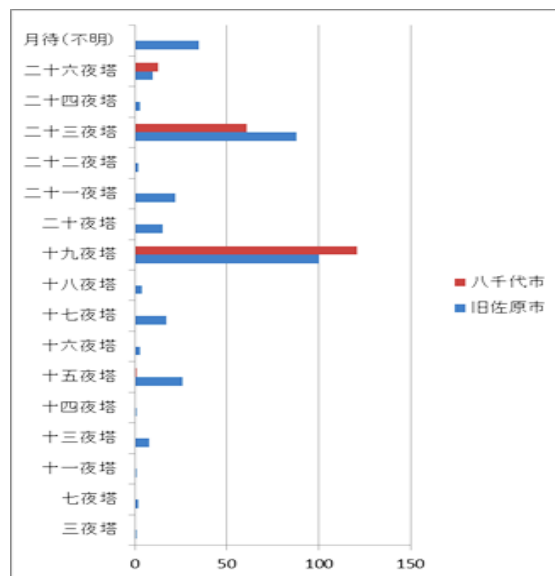
(完全なデータを分析したものではありませんが、地域的な様相の違いや傾向の把握のために、集計してみました。)

月待塔種類	旧佐原市	旧成田市	佐倉市	旧印旛村	八千代市	白井市	四街道市	八街市	習志野市	君津市	計
三夜塔	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
七夜塔	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	6
十一夜塔	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
十三夜塔	8	4	1	1	0	0	0	0	0	0	14
十四夜塔	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
十五夜塔	26	18	0	5	1	0	0	0	0	0	50
十六夜塔	3	3	0	1	0	0	0	0	0	0	7
十七夜塔	17	7	0	3	0	0	0	0	0	0	27
十八夜塔	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5
十九夜塔	100	62	93	100	121	85	21	0	25	0	607
二十夜塔	15	3	0	1	0	0	0	0	0	0	19
二十一夜塔	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22
二十二夜塔	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
二十三夜塔	88	37	41	48	61	28	1	1	2	4	311
二十四夜塔	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4
二十六夜塔	10	3	5	7	13	0	0	0	1	0	39
月待(不明)	35	1	0	1	0	1	0	0	0	3	41
計	338	139	141	171	196	114	22	1	28	7	1157

北総 10 市町村の月待塔の種類別基数グラフ



旧佐原市と八千代市の比較



*電子データ「下総地方中部 8 市町村（習志野市・佐倉市・成田市・四街道市・酒々井町・八街町・印旛村・本埜村）石造文化財データベース 2011 年版」（白井豊・吉村光敏・吉田文夫・西岡宣夫）、「八千代市石造文化財一覧表」（2011 西岡）「佐原市石造物目録」（2012 西岡）を使用

② 十四～十七夜塔の事例（十五夜塔を除くときわめて少ない）

- ・元禄 11 年（1698） 香取市山川墓地 阿弥陀像 「拾四月待」 銘

- ・元禄 9 (1696) 佐倉市飯野観音 阿弥陀像「十五日念仏」塔
- ・寛政 7 (1792) 土浦市小岩田 東福聖院廃寺跡 子安像「十六夜」「女人講」銘
- ・享保 1 (1716) 八千代市村上 正覚院 地蔵像「十五夜念仏」塔 (おいわ おい□等女性名)
- ・明和元 (1756) 香取市龍谷 円珠院跡 聖観音像「十五夜」塔
- ・文化 7 (1810) 香取市石納 観照院 子安像「十五夜」塔
- ・元禄 11 (1698) 香取市龍谷円珠院跡 聖観音像 十七夜塔
- ・延享 3 (1746) 香取市石納 結佐大明神 如意輪観音像「十七夜」塔

③十九夜塔をめぐる課題と事例

1. 千葉県内の十九夜塔の始まり

旧暦 19 日の夜、女性が寺や当番の家に集まって、講を開き、如意輪観音の前で経文、真言や和讃を唱える行事を「十九夜講」と呼び、関東北東部で盛んに行われていた。

十九夜講が、祈願の信仰対象あるいは成就のあかしとして建立する石塔が「十九夜塔」で、主に、右手を右ほほに当て首をかしげ、右ひざを立てて座る姿の如意輪観音像が主尊として彫刻されている。

千葉県で一番古い十九夜塔は、承応元年 (1652) 香取市石納 結佐大明神の宝篋印塔ですが、「十九夜念仏供養 二世安楽」などの銘文と、如意輪観音像を刻んだ典型的な十九夜塔が盛んに建てられるようになるのは、千葉県内では万治 3 年 (1660) 山武市戸田の金剛勝寺の十九夜塔からである。なお、千葉県内のその頃の像容は、二臂より六臂の如意輪観音像が多く、またまれに聖観音像や地蔵像の十九夜塔も見られる。

- ・承応元年 (1652) 香取市石納 結佐大明神境内 宝篋印塔 石塔で中段に「キリーク」の梵字と基礎に「承応元壬辰年／十九夜待之供養／十二月十九日」の銘
- ・明暦元年 (1655) 山武郡芝山町加茂普賢院 六地蔵立像の石幢「奉新造立石六地蔵十九夜待」の銘
- ・万治 2 年 (1659) 山武市本須賀 大正寺 宝篋印塔「上総国山辺庄武射郡南郷本須賀村 奉唱満十九夜念佛二世安隠之所 萬治二年己亥三月十九日 結衆七十五人敬白」の銘

2. 十九夜塔の発祥地-筑波山ろくの石塔

・つくば市平沢の八幡神社には、「寛永九年 (1632) 三月十九日 願主敬白」と刻した石塔があり、雲母片岩に稚拙な彫りで日月と蓮華座に座す仏像を刻まれている。「十九日」の日付から、観音坐像を彫った十九夜供養塔で筑波町最古とされているが・・・

・つくば市 通称「北条新田」の家と八幡川にはさまれた大きな榎の根元の石塔群の、寛永 10 年 (1633)、弥陀 3 尊種字と「奉造立石塔者 十九 (念仏)」と刻む自然石文字塔があり、中上敬一氏はこれが最古の「十九夜塔」とする。『筑波町石造物資料集 上巻』による銘文は、「五十□人 敬白 / □□・・・ / 奉造立石塔者十九□□ / 寛永十年□西 八月吉日」

3. 茨城県利根町の十九夜塔

- ・寛永 15 年 (1638) 利根町大平神社「念佛之」「九月十九日」銘の石祠
- ・万治元年 (1658) 最古の如意輪観音像の十九夜塔 布川の徳満寺 如意輪観音を線彫した板碑型
- ・万治 2 年 (1659) 布川神社 「十九夜」塔 六臂如意輪観音を線彫りした板碑型

4. 千葉県での如意輪観音像の十九夜塔の始まり

- ・万治 3 年 (1660) 山武市戸田の金剛勝寺の十九夜塔
- ・寛文 3 年 (1663) 山武市松ヶ谷の勝覚寺の十九夜塔

5. 印西市の如意輪観音像の十九夜塔事例

- ・寛文5年(1665)小倉青年館 ・寛文6年(1666)山田円蔵寺 ・寛文8年(1668)大森古新田青年館
- ・寛文8年(1668)和泉青年館 ・寛文8年(1668)別所地藏寺 ・寛文8年(1668)松虫寺
- ・寛文9年(1669)中根福聚院 ・寛文11年(1671)戸神青年館
- ・寛文12年(1672)印旛村平賀観音堂 ・寛文13年(1673)竹袋観音堂
- ・延享元年(1744)宗甫観音堂 ・天明2年(1782)小林光明寺
- ・寛政元年(1789)中央公民館前「江戸道」道標付 ・文政10年(1827)鎌苅東祥寺

6. 北総の如意輪観音像の十九夜塔事例

- ・寛文10年(1670)白井市延命寺 ・延宝2年(1674)八千代市高津観音寺
- ・貞享2年(1685)松戸市徳蔵院 ・延享4年(1747)千葉市花島観音
- ・宝暦3年(1753)佐倉市青菅正福寺 ・宝暦10年(1760)佐倉市先崎雲祥寺
- ・明和4年(1767)八千代市麦丸東福院 ・文化7年(1810)白井市下長殿青年館

7. 如意輪観音像以外の像の十九夜塔事例

- ・寛文13(1673)香取市西音寺 聖観音像 十九夜塔
- ・延宝2(1674)香取市田部西雲寺 聖観音像 十九夜塔
- ・元禄8(1695)香取市西音寺 地藏像 十九夜塔
- ・享保13(1728)習志野市津田沼東福寺 大日如来像 十九夜塔
- ・寛政11(1799)香取市石納結佐大明神 虚空蔵像 「淡嶋」銘 十九夜塔
- ・享保5(1720)佐倉市先崎みどり台墓地 六地藏 「十九夜講村中」銘
- ・宝暦13(1763)八千代市萱田長福寺宝篋印塔「奉造立六地藏講中 奉供養十九夜講中 當村善女人」銘

8. 子安像の十九夜塔事例

- ・寛延4(1751)旧大栄町馬乗里お堂付近 ・宝暦2(1752)成田市水掛48墓地
- ・宝暦5(1755)旧本埜村 行徳稻荷神社 ・天明7年(1787)山田町大角稻荷神社
- ・寛政8(1796)香取市与倉・西方院跡(公会堂) ・平成26(2014)八千代市下高野福蔵院

9. 十九夜塔の分布

千葉県北部、茨城、栃木、埼玉、福島県の一部に多い。

特に利根川流域を中心に、「古鬼怒湾」あるいは「香取の海」といわれる霞ヶ浦から印旛沼・手賀沼を含む湖沼から遡上する河川沿岸の村々ひろがる。

初期の十九夜塔造立は、利根川とその支流の小貝川・手賀川・長門川・利根常陸川の流入地点が早い段階から十九夜塔普及の地域となっている。

十九夜塔の関東各県別の数	
栃木県	2702基
茨城県	1672基
福島県	1449基
千葉県	1175基 *
群馬県	142基
埼玉県	108基
中上敬一氏の2005年報告	
* 石田年子氏の2011年の集計で	
千葉県	1997基

初期の十九夜塔造立数 寛文10年(1670)まで	
茨城県側	
利根町	10基
伊奈町	7基
取手市	6基
藤代町	3基
鹿嶋市	3基
千葉県側	
印西市	12基
佐原市	6基
印旛村	6基
我孫子	5基

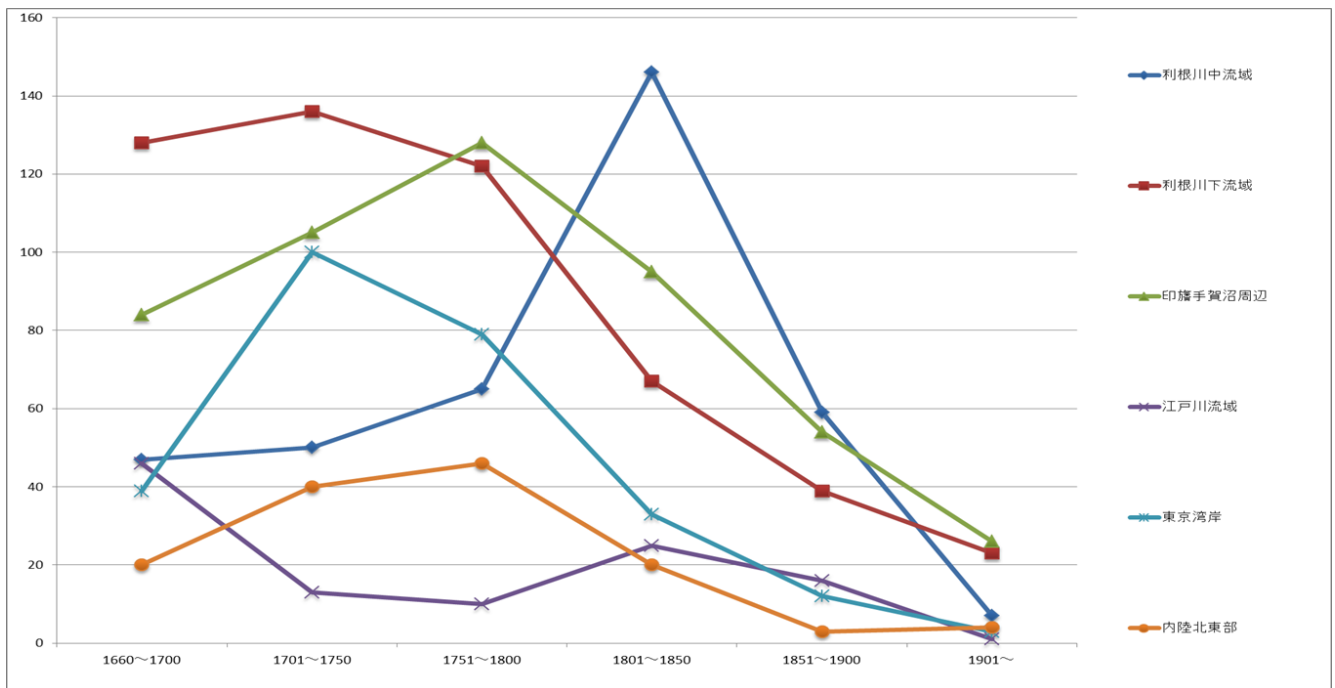
資料1-2表3 千葉県北部の十九夜塔の分布と推移

石田年子氏調査データ（『房総石造文化財研究会主催 2011年第17回石仏入門講座』から蔵が整理・集計・作図

2012.2.3

西暦	利根川中流域	利根川下流域	印旛手賀沼周辺	江戸川流域	東京湾岸	内陸北東部	計
1660～1700	47	128	84	46	39	20	364
1701～1750	50	136	105	13	100	40	444
1751～1800	65	122	128	10	79	46	450
1801～1850	146	67	95	25	33	20	386
1851～1900	59	39	54	16	12	3	183
1901～	7	23	26	1	3	4	64
不明	9	41	24	5	18	9	106
合計	383	556	516	116	284	142	1997

エリア	市町村名						
利根川中流域	野田	柏	我孫子				
利根川下流域	印西	栄町	成田	佐原	東庄	小見川	
印旛手賀沼周辺	沼南	鎌ヶ谷	白井	八千代	佐倉	酒々井	印旛 本埜
江戸川流域	市川	松戸	流山				
東京湾岸	船橋	習志野	千葉				
内陸北東部	四街道	富里	大栄	山田	八日市場		



10. 十九夜塔の主尊は なぜ如意輪観音なのか（高遠奈緒美「血盆経信仰の諸相」から）

- ・「十九夜念仏和讃」＝毎月十九日に集まって、十九夜念仏を唱えれば、血の池地獄に墮ちた女人を如意輪観音が救済してくださる
- ・「血の池地獄」＝「血盆経」という室町時代に中国で成立・伝来した差別的な偽経に出てくる地獄、月経とお産で流す血の穢れから女性が逃れられない恐ろしい死後の世界
- ・「如意輪観音＝血の池地獄の救済者」何故血盆経信仰と結びついたのかは、中国における問題であり、その理由は定かではない。
- ・京都六角堂（『聖徳太子＝如意輪観音』化身説）⇒「血の池観音図」⇒16世紀後半の岡崎満性寺に伝来
- ・熊野比丘尼の「観心十界図」（血の池・不産女地獄）絵解き＝血盆経信仰を勧め、血盆経を頒布した。熊野は女性の不浄”を厭わぬ聖地 ⇒熊野比丘尼により女性達がより積極的に血盆経信仰を受け入れる道を拓く ⇒宗派内を越え、如意輪観音が絵画を通して広く各地に定着
- ・血盆経護符の携帯＝不浄を他に及ぼさず、死後の成仏を約束⇒安産のお守り⇒関東では正泉寺が喧伝

11. なぜ十九夜なのか？ 利根川ペリに十九夜塔が多いのはなぜか？

- ・五来重の『石の宗教』＝「観音の縁日の18日に遠慮」「十九は馬鹿とか安物、つまらぬもの」「女人自ら

罪業深きつまらぬものと自覚」「間引きの罪悪感→死児の供養」

⇒遠藤和男「女人講は十九夜ばかりではない。江戸時代の女性は低い地位に甘んじていたかどうか検討の余地がある」

⇒中上敬一（⇒五来氏の説に反論）「十九夜塔が関東で 3000 基以上も堂々と建立されている。」「十九夜の由来は、女の厄払いと安産（難産除け）祈願であった、若き女の厄年は十九歳であるからこれを日厄にして十九夜ができた」（結果論か？）

・茨城県新治郡出島村に残された明治十年の和讃「帰命頂礼 十九夜の由来を詳しく尋ねるに数多の諸仏集まりて、若き女の大厄は、難産除けの祈祷にて、火水を改め身を清め十九夜待をするならば、慶長元年西の三月十九日 十九夜念仏始まりで、雨の降る夜も降らぬ夜も・・・」

・利根川べりの女人講が十九夜と如意輪観音に定着するのは、十九夜塔で見ると寛文 10 年（1670）以降。

・元和 7 年（1621）から本格化した利根川東遷の治水大事業が一段落し、銚子から関宿を經由、江戸に至る水運のほか、新田開発が大規模に進んでいく頃である。

・費用のかかる石造物建立は、女性の地位が高く、財力もあった証である。

・二世安楽を祈願する中世末期の念仏講から、女人講が江戸初期の早くから成立した。

・女人往生と安産祈願は、不可分である。

・江戸中期には、子安信仰と習合⇒現世利益・親睦・相互扶助が中心、如意輪観音像から子安像塔へ。

・十九夜の日がちが講の日選ばれたのは、謎（この日が単に集まりやすかったからか？）

・平岩毅氏は「十九夜は月待ではない。観音崇拝の念仏信仰、19 日は如意輪の縁日」

④二十一夜塔の事例

・宝永 4（1707）香取市石納結佐大明神 聖観音像 「廿一夜」塔

・正徳 3（1713）香取市田部西雲寺 聖観音像 「廿一夜」塔

・享保 6（1721）香取市田部西雲寺 地藏像 「廿一夜」塔

⑤二十三夜塔をめぐる課題と事例

1.二十三夜塔は日本全国に分布するといわれるが、北総では、女人講の十九夜塔に次ぐ。（十九夜塔基数の約半数）刻像は勢至菩薩が多い。主に男性の講であるが、まれに女人講の場合もある。

二十三夜の月待信仰は、「月神の月天子は勢至菩薩の化身」と説く隋代の天台大師『法華文句』に由来。

⇒天台宗「三十日佛」説の「二十三日＝勢至」⇒月神の本地仏・勢至菩薩と二十三日が結びつき、月を拝み念仏する風習が成立（「千葉市の十九夜念仏塔」平岩毅『房総の石仏』6号）

2. 八千代市の初期の事例

・寛文 8（1668）八千代市吉橋 尾崎大師堂 勢至菩薩像 二十三夜塔 「右勢至菩薩者廿三夜待開眼成就所 吉橋村施主敬白」銘、男性名連記。

同日の寛文 8 年 10 月 10 日に女性名連記で地藏像の日記念仏塔を建立「右地藏菩薩者日記念仏供養成就処 吉橋村施主敬白」銘

・寛文 9 年（1669）八千代市萱田長福寺 日記念仏&二十三夜の三層塔。勢至菩薩を第 2 層に浮彫りした 2m を超す石塔。第 2 層右面には「廿三夜講」、左面には「日記念仏供養」。第 1 層は龕室となっていて、右面に「一結施主 女中衆」として「おつる おこう おくま」など 24 名の女性が、左面に「定宥 □左衛門 □兵衛 長十郎」など 33 名の男性、裏面には建立発起人とみられる「宥秀」ほか「加左衛門」など 3 名の村人が名を連ねている。

・元禄5年(1692)八千代市吉橋寺台公民館(勢至堂跡) 勢至菩薩像 二十三夜塔、「二十三夜開眼供養」男性名22人銘。

同日2月23日に女性30人連名で聖観音像の日記念仏塔を建立、両者の願文と経文の形式はほぼ同じ。

3. 印西市の事例

- ・寛文10(1670) 印西市大森古新田 青年館 勢至菩薩・地藏像 二十三夜塔
- ・延宝2(1674) 印西市平賀 不動堂 勢至菩薩像 二十三夜塔

4. 香取市の板碑型の事例

- ・貞享3(1686) 香取市石納結佐大明神 二十三夜塔
- ・元禄16(1703) 香取市野間谷原水神社 光明真言 十九夜・二十三夜塔

5. 文字塔&林立する二十三夜塔群

- ・享和4(1804) 八千代市高津字宮ノ前庚申塚 二十三夜塔 「廿三夜待勢至菩薩」銘 男性名連記
- ・印西市(旧本埜村) 荒野南の内の二十三夜塔群 文化年間~昭和13年 江戸時代の石塔は道標付が多い。明治8年からは「女人講中」銘

6. 日蓮宗系&神道系の二十三夜塔

- ・寛政6(1794) 八千代市高本国蔵院 題目二十三夜塔「南無妙法蓮華経 奉勧請二十三夜大月天子擁護」
- ・明治6(1873) 八千代市米本字下宿東 道標付二十三夜塔 「廿三夜大神」 銘

⑥ 二十六夜塔をめぐる課題と事例

旧暦26日の月待の記念として造立した塔で、愛染明王を本尊とし、関東地方以北を中心に分布するという。「二十六夜塔」などと刻まれた文字塔と愛染明王の刻像塔があるが、北総での数は極めて少ない。男女別もデータ数が少なく不明。

八千代市大和田新田上区では、平成20年当時、20名ぐらいの女性により、「六夜さま」と称して正月・五・九月に講を開いていた。大和田新田上神明社前には、近現代の女人講の二十六夜塔が4基ある。

江戸期では、八千代市下高野の二十六夜塔の台石に「若者中」、旧本埜村荒野南の内の二十三夜塔群の道標付二十六夜塔の台石に「女人講中」とある。

江戸では「江戸の六夜待」として近世の江戸で隆盛をきわめた一時期があったという。月齢二十六前後の月は三日月のように細く、東天に姿をみせるのは明け方に近い時間である。7月26日のこの月光の中に、弥陀・観音・勢至の三尊が見えると言って、文化・文政の時代には湯島天神などの高台や芝高輪品川などの海岸は見物客でにぎわい、月待信仰の名を借りた夜遊びの遊興娯楽の行事であったことから、風俗の乱れを懸念する幕府の取り締まりが行われ、天保期に入って急速に廃れたらしい。

- ・元禄5(1692) 香取市石納結佐大明神 勢至菩薩像 二十六夜塔
- ・文化8(1811) 佐倉市弥勒町松林寺 愛染明王像 二十六夜塔
- ・文化12(1815) 八千代市下高野 道祖神社奥 二十六夜塔 「若者中」銘
- ・文化15(1818) 佐倉市井野 千手院 愛染明王像 二十六夜塔
- ・安永8(1779) 旧本埜村荒野南の内 道標付二十六夜塔 台石に「女人講中」銘
- ・明治28(1895) 八千代市高本国蔵院 文字塔の二十六夜塔
- ・明治14~昭和43(1881~1968) 八千代市大和田新田上神明社前 「女人講中」銘 4基